

第2回糸魚川市大規模火災を踏まえた今後の消防のあり方に関する検討会（平成29年2月24日） 委員発言要旨

今回の火災への評価

【田中委員】

- 特殊だったのか、そうではないのかということについてはどう評価するのか。（強風が前提になっているが、強風でなくても一定程度燃えた後であれば大規模火災になるのか。）
- （関澤委員）平常時であれば1件の火災で抑えることができる。そのように今の消防はなっている。
震災時に同時多発火災となると消防力が負けることとなる。（阪神大震災の場合も同様）東消でも地震時の大規模火災に対しては負けることとなるため、住民による消火を促している。
飛び火による同時多発火災となり、今回は一気に消防力が不足した。
糸魚川が特殊な街区だったかということ、そうではないと思うので、強風時の活動に課題がある。
- （室崎座長）反省として、酒田の時は特殊だとされて飛び火の状況等について真剣に議論されなかった。特殊だとは考えずに議論していった方がいい。
ただし、滅多に起きないことにお金をかけることもできないので、発生確率とリスクの関係を考えて具体的な対策は打ち出すべき。

【山崎委員】

- 市街地大火は乗り越えたと思っていた。もう一度火災に強いまちづくりを考えてもらいたい。

【田村委員】

- 論点について議論するのが早いように思う。何が起きて、どう対策していくかの2段階の議論ができれば良い。

建物構造及び飛び火・延焼状況について

【田村委員】

- 出火元は小さい区画に押さえていて、北に行くと延焼範囲が広がっているのはどういうことなのか。火元周辺では左右からの注水により延焼防止しているが、詳細に時系列でわからないか。
- （消研）火元周辺では左右からの注水により延焼を押さえている。風がなければ、同心円状に延焼していくが、強風により扇形に広がっているもの。

【山崎委員】

- 飛び火、風速何メートルで何処まで届くのか
→ (消研) 風速10数メートルで100～数100m。遠くまで飛んだものとして1km超えの記録もある。

- 地震以外でも危険な密集市街地の把握ができているのか
→ (国交省) この地域は火災についても危険と言える。この地域の指定は事業実施の必要性を各自治体で判断したもの。
社会資本整備総合交付金で行っている事業の対象は1万7千haある。

【室崎座長】

- 飛び火について、大きさのことがわかるようなものはあるか。
→ (消研) 採取したものからしかわからず、資料にあるものが最大。

- 飛び火は上から落ちてきて屋根を打ち破ったのか。(地震のために瓦が薄くなっている。中に可燃性シートが貼ってあるため、その可能性が高いのではないか。)
- 写真を見る限りでは突き破っているように見えるが、屋根の構造規制を見直す必要があるのではないか。
- 屋根を突き破って火柱が上がるメカニズムについてどう考えるか。
→ (消研) まだわからない。すきまから入ったとか、突き破ったとか色々なパターンを想定して研究していきたい。(住民ヒアリングや実験で研究)
→ (国交省) 飛び火に対する屋根の性能については、今後確認したい。

- 裸木造に防火性を上げるためにトタンを貼るよう進めていた時期があったのではないか。
→ (小林委員) ストリートビューで見ると、トタンはめくれているところもあり、防火性能は微妙だったのではないか。
→ (糸魚川) トタンのせいで、煙が見えるが火炎が見えないという状況はあった。屋内進入して消火活動をしなければならない。
→ (室崎座長) トタンは外からの火は防げるが、トタンの内側で燃えていると消火活動上支障がある。

- 飛び火を除けば、強風だった割には延焼速度がゆっくりだったと思う。検証してほしい。

【小林委員】

- 木造建物のうち、裸木造の比率はどの程度だったのか。(裸木造が多ければ全国的に特殊な地域と言えるかもしれないが、そうでなければ、全国的ありうる地域ということにな

るかもしれない。)

→ (国交省) 登記簿は木造。建築確認の台帳等を洗い直して、県と協力して確認中。ただし、戦前のものは台帳も残っておらず確認は難しいと思われる。

【関澤委員】

○ 飛び火が連続で起こると、消火は厳しい。火元地域は密集していたが、その他の延焼範囲は普通の市街地であり、飛び火の対策を建築部局の課題として考えなければならぬと問題提起はしておく。

消防活動について

【関澤委員】

○ 消防力については、消防団の働きが今回の火災では心強かった。(火災防御図にしてもらうとわかる。)

【松浦委員】

○ 「空振りを恐れず」という表現は不適切(出動しても何も無い方が良いのであり、空振りは恐れていない。消防の現場に対して失礼)

○ 「全隊出動等とすべき」という表現は、別の場所で起こる次の火災に迅速に対応できないことにつながるため、表現を改めるべき。

→ (室崎座長) 大都市と小規模では状況が違う。「空振り」という表現については、今回の糸魚川で言えば、県内応援を優先して隣県の本部への応援要請が遅かったとか一定の配慮のようなものがあつたのではないかということ。

→ (田中委員) 要請については、小規模ではきちんと考える余裕がないのではないか。むしろ、どういう応援体制の仕組み作りをしていくかということ。「空振りを恐れず」という言葉はなくした方が良い。

【田中委員】

○ 消防審議会でも広域化と連携・協力ということを議論しているが、消防体制の整備を検討する単位(都道府県単位か、より広域な範囲か)についてもどのように考えていくのか。

○ 近隣同士の応援だと、気象条件が一緒であり、応援に出しづらいということもある。

【室崎座長】

○ 飛び火を止めるためにどのような戦術があるのか。直上放水はどうか。

→ (関澤委員) 直上放水は効果がない。酒田の時は住民が屋根に登って飛び火警戒をした。避難について、今回は迅速に行えたということだが、全員が避難するのではなく、元気な住民が飛び火警戒を行うという考え方も必要ではないか。

→（小林委員）飛び火は、昔は当たり前だったもの。元気な人は逃げずに消すという考え。戦時中の空襲時等は住民で飛び火を防ぐノウハウがあったのではないかと。消防庁で探してもらえないか。

→（松浦委員）直上放水は効果ない。なお、東消では飛火火災警戒要領を定めており、高所からの警戒、消火器具等を持って巡回を行うなど定めている。

【山崎委員】

○ 初期の段階でどれだけの消防力を投入できるか、が課題。

○ 消防団の小型ポンプでは、延焼火災になると太刀打ちできないのではないかと。周辺から初期の段階で周りから応援してきてくれるのはいいが、5分10分でかけつけられる消防団に消防力を持たせることが必要であり、全団は無理でもコアになる分団等に大きなポンプを持ってもらうということが必要ではないかと。

→（秋山委員）消防団にはポンプ車と小型ポンプがあるが、小型ポンプであっても水利があれば性能的には十分に延焼火災でも活動できる。

○ 消防は情報を上に上げようという意識が少ない（そういう組織風土がない）。警察は現場に広報部隊もいて情報の上がり方が速い。情報の上げ方について考えてもらいたい。

【室崎座長】

○ 糸魚川市消防団の70台のポンプがきちんと活用できていればもっと消火できたのか。メンテナンスや水利の状況と併せて考えるべきか。

【浜本委員】

○ 現場では、その地域の地理・水利は十分に把握されているし、消火活動要領やどう活動するのかということも一定のものを持っている。ただしこれが、実態に合っているのかということについては、その地域の弱点分析をして対策を持つことが必要。

このような弱点の分析には、知見のない消防本部もある。延焼シミュレーションの活用など、分析のやり方についてひな形があるといい。

訓練について

【秋山委員】

○ 強風下の訓練というのは、消防団員は特に普段仕事を持っているので難しい。統一的な活動基準等を映像素材とかを作ってもらえれば消防団にも共有しやすい。

火災予防について

【月成委員代理】

- 火災気象通報について、都道府県において一律に通報されることが多い。市町村毎にできると良い。

【山崎委員】

- 住警器の設置義務の空白（住宅は全て対象になっているが、その他の建物は、小規模なものは対象になっていない。）の部分についてどうすべきか。不特定多数の客が来るような小規模な店舗にも設置義務とするべきではないか。
- 高齢者の逃げ遅れという問題もあるので、カーテン等の布類を防災製品にするよう不特定多数の客が来るような小規模な店舗については徹底すべきではないか。

【新潟県】

- 独居老人の住む小規模住宅における火災発生防止等を検討すべきではないか。

【室崎座長】

- 住警器が隣家に伝わらないというのは大きな問題。

住民避難について

【浜本委員】

- 避難については、今回はすばらしかった。どういう活動だったのかまとめていただき、全国で参考としたい。
- （田中委員）現在住民アンケートなど進めている。

被害認定について

【田村委員】

- 被害認定調査の部分は市がお手伝いをしながら対応しているところ。火災の原因調査も重要であるし、被災者支援も重要である。火災調査の応援について考える必要があるのではないか。

財政支援について

【松浦委員】

- 財政支援については論点にならないのか。（例えば消防団の動力ポンプのメンテナンス

費用等)

→ (室崎座長) 財政支援は最後に話すことで、アウトプットの中身によってはそういうものの必要性も出てくる。